



小城市立歴史資料館＊中林梧竹記念館だより

佐賀大学交流事業特別展 「小城藩日記の世界」展を開催します

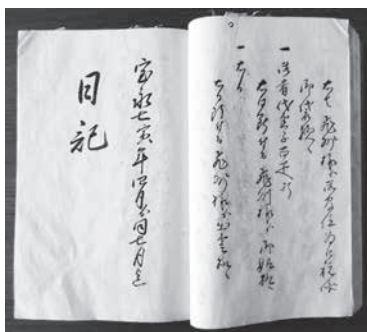
佐賀大学と合同で企画展を開催します。

「小城藩日記」は小城藩の政治・行政から人びとの暮らしに関わることで、さまざまなことが記録されています。今回の展示では「小城藩日記」から分かる江戸時代の小城の姿について、関連資料と併せて紹介します。

◆期間 10月24日（土）～12月13日（日）

◆場所 歴史資料館 企画展示室

◆入場料 無料



「小城藩日記」(宝永7年)

佐賀大学交流事業に関連して講演会を開催します

【講演会】

◆日時 10月31日（土） 14時～
11月28日（土） 14時～

1日
2講演

◆場所 歴史資料館 研修室

◆入場料 無料

◆定員 各日先着25人（要予約）

◆申込方法 電話でお申し込みください。

【講演内容】

「小城藩日記の世界について(仮)」

◆講師 いとう あきひろ 伊藤 昭弘さん
(佐賀大学地域学歴史文化研究センター長)

「小城藩日記データベースについて(仮)」

◆講師 よし が なつこ 吉賀 夏子さん
(佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究員)

※講演は両日とも同じ内容です。

おぎの歴史探検隊

あまやま

天山は古代の中央政府にも「霊場」として知られていた？〈その3〉

古代の小城地方に「土生遺跡」や「久蘇遺跡」があるように、有明海を通じて朝鮮半島と往来があり、天山も古くから霊場（山岳信仰）として知られていたものと考えられます。古来、「ぜんじょうざん 禅定山」と呼ばれていたということです。

持統天皇の朱鳥年中、対馬に「異国人が来て異風を広めようとした」とあり、その具体的な内容を知ることはできませんが、朱鳥8（694）年、参議藤原房前が「異国人退治」を命じられ、小城に下向してきました。なぜ小城だったのか、それは小城の霊場で戦勝祈願するためであったと考えられます。そのとき祀られたのが「あまてらすおおかみ 天照大神」であったのではないのでしょうか。

翌朱鳥9（695）年2月下旬、対馬の「異国人」を退治することができたので、うかのみたまのかみ 宇賀御魂神、おおものぬしのかみ 大物主神

の「しんちやく 神勅（お告げのこと）」を受けて安定することができたとあります。

この出来事を房前は次の文武天皇に奏上すると、小城郡内に永代神領として300町歩いただきました。大宝2（702）年11月（一説に10月）15日、天山の池の中に島を築き「ほうらいとう 蓬莱島」と名付け、ここに宇賀御魂神を祀るとありますが、この時「宗像三女神」を祀ったというのが現在の定説となっており、それが「晴気」「岩蔵」「広瀬（唐津市厳木町）」の三社に分かれたのがいつかなど、まだ多くの謎があります。（終）

小城郷土史研究会/著



▲天山社上宮

❖開館時間 9時～17時

❖休館日 毎週月曜日・祝日

小城市ホームページから

梧竹・歴史資料館・文化財

検索

【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課（桜城館2階） 担当 下川・永田 ☎71・1132